

令和 4 年 6 月 7 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K11903

研究課題名(和文) アフリカにおける紛争と女性のエージェンシーに関する基礎的研究

研究課題名(英文) Basic Study on Armed Conflict and Women's Agency in Africa

研究代表者

眞城 百華 (MAKI, MOMOKA)

上智大学・総合グローバル学部・教授

研究者番号：30459309

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：アフリカの女性兵士の経験に関しエチオピア、エリトリア、ジンバブウェ、南アフリカの比較を行う研究を行った。文献調査とオーラルヒストリー渉猟を実施した。エチオピアと南アフリカで集中的に調査を実施した。エリトリアとジンバブウェにおいても限定的ながら調査を実施した。エチオピアでは2020年11月から調査地で戦争が勃発し、戦時性暴力など女性の被害の問題と合わせて新たに女性兵士の戦争参加が生じ、ティグライ戦争に関する情勢を分析する論考も複数執筆した。エチオピアと南アフリカの女性兵士を取り上げた英語論文を執筆し刊行した。論文執筆に加え国内の複数の学会における発表、国際会議における発表も実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本科研により、アフリカの紛争下における女性のエージェンシーの比較研究の基礎研究が実施できた。アフリカの紛争下の女性の被害に加えて、女性が解放闘争に女性兵士や民間支援の形で参画した経験は、戦後に再建される国家や社会における女性の活動領域を飛躍的に拡大することにつながる点を実証できた。問題も多く内包している点も同時に明らかにできた。紛争と女性にかかわらず、アフリカ政治と女性という重要な課題についても言及することのできる研究成果となった。

研究成果の概要(英文)：This research is a comparing study of Ethiopia, Eritrea, Zimbabwe, and South Africa regarding the experiences of women soldiers in Africa. In addition to a literature review, oral histories were conducted. Oral history research was conducted intensively in Ethiopia and South Africa. Limited research was also conducted in Eritrea and Zimbabwe. In Ethiopia, war broke out in November 2020, and several articles were written analyzing the situation regarding the Tigray war, as well as issues of wartime sexual violence and other damage to women. I have written and published articles in English on women soldiers in Ethiopia and South Africa. In addition to writing papers, I have made presentations at several conferences in Japan and at international conferences.

研究分野：国際関係学・アフリカ研究

キーワード：エチオピア 南アフリカ アフリカ 女性兵士 紛争 平和構築 アフリカ史 解放闘争

1. 研究開始当初の背景

アフリカにおけるジェンダー研究、また紛争研究において「紛争と女性」は関心の高い研究テーマである。紛争研究では紛争下、紛争後の戦後復興における女性は研究対象であるが限定的期間の研究となる傾向が強いが、本研究は戦中から戦後 20 年以上という長期的視野に立ち再検討を行う。アフリカの紛争国における女性の戦後の地位に着目した Tripp 編の「ポストコンフリクトアフリカにおける女性と権力」では、ウガンダ、リベリア、アンゴラを分析し、さらに紛争を経験したアフリカ諸国について女性の権利や指導力、ローカル NGO などの活動について分析を行っている。Tripp, Ali Mari, *Women and Power in Postconflict Africa*, Cambridge University Press, 2015) 法制度や機構の分析に限定されており、女性のエージェンシーに注目してアフリカの「紛争と女性」研究をさらに深化させる余地がある。

申請者はエチオピア最北部のティグライ人民解放戦線(TPLF)と女性にかんする研究を行ってきた。TPLF の事例をアフリカ女性史に再定置化するために他国の事例も参照し研究する必要性がある。また女性の内戦下の役割やエージェンシーについて各国史の枠組みに限定されており、アフリカ地域の特性を浮き彫りにする課題も明らかになった。アフリカの紛争研究では女性の被害と犠牲の側面に関心が集中する傾向がある。多大な被害は決して看過できないが、エチオピアの事例から着想を得て、他のアフリカの解放闘争においても女性兵士や女性幹部などに着目して紛争下また戦後の新政権下における女性のエージェンシーに着目し、紛争と女性を再考する意義を検討したい。

2. 研究の目的

本研究は、紛争が生じたアフリカ諸国における女性の地位変革と女性のエージェンシーに着目して紛争と女性を再考することを主眼とする。犠牲や被害の文脈で扱われる紛争下の女性であるが、紛争の性格により女性が紛争下でも重要なアクターとして役割を担い、それが紛争後の新政権にも引き継がれている点も看過できない。法制度や憲法における女性に関する条項の比較などの表面的な捉え方ではなく、紛争に参画した女性たちに着目してそのエージェンシーが戦後にいかに継承され、政策決定にも影響を及ぼしたのかを、主に、エチオピア、南アフリカ、ジンバブウェ、エリトリアの 4 か国のアフリカの解放闘争の事例から検討し、アフリカにおける紛争と女性、女性解放の実践について再検討を行う。

3. 研究の方法

本研究では、主に 1970 年代～80 年代にかけて解放闘争を展開した、エチオピア、エリトリア、南アフリカ、ジンバブウェを取り上げて主に、戦中から戦後にかけての女性兵士を中心に調査を行い、女性のエージェンシーについて検討を行う。解放闘争に関与した女性のライフコースにおいて、戦前、戦中、戦後に架橋する経験を長期的に分析することが必要となる。

解放闘争の内実も国家により異なるため、各国の政治的背景、歴史などについて文献研究も進めた。また以下のオーラルヒストリー調査と並行して、史料の渉猟も実施した。

解放闘争に参加した年代、出自、組織内の地位などによりその経験も多様であるため、できる限り多くの聞き取り調査を実施することを目指した。また南アフリカは特に先行研究も多く、またオーラルヒストリーを集約した体験記が多数出版されていることもあり、これらの分析も同時に進めた。

以下の 3 つの時期区分を設定して検討を行う。

-) 戦前の女性：女性の地位（政治・経済・社会・文化）、ジェンダー規範
-) 戦中の女性：被害・犠牲、紛争参画（党员・兵士・支持・支援）、女性政策（政治参加、経済的エンパワーメント、ジェンダー規範の変化）
-) 戦後の女性：政治（国会・地方議会の議員、議員活動、女性の法的地位、女性に関する政策）、経済（経済的諸権利へのアクセス、土地配分、女性起業家、マイクロファイナンス、職業訓練）、社会（女性の組織化、社会変革活動、ローカル NGO の活動、コミュニティにおける女性の地位、教育）、家庭（家族関係における女性の地位、ジェンダー規範の変化）、戦後復興プログラム（元女性兵士の社会復帰プログラム、除隊一時金、支援）

研究蓄積の少ない) では、元女性兵士・解放勢力メンバーなどへの聞き取り調査、先行研究の再検討、ローカル NGO など戦後の女性アクターの活動に着目した。

4. 研究成果

2018-2019 年度の 2 年間は文献研究に加えて、精力的に先に指摘した 4 か国において、元女性

兵士を対象としたオーラルヒストリー調査を実施した。すでに研究蓄積のあるエチオピア・ティグライ州で追加調査を行い、またこれまで非公開であった解放戦線時代のアーカイブから女性や女性兵士に関する史料を渉猟した。本研究課題においてはじめて調査を実施することになった南アフリカ、ジンバブウェ、エリトリアに関しては、南アフリカで与党の女性団体の元代表、元大臣、政府高官から War Veteran Association のスタッフなど幅広い世代、出自の女性についてオーラルヒストリー調査を実施することができた。

長く研究蓄積のあるエチオピア・ティグライの女性兵士については、2018 年の国際エチオピア学会やその他国内の学会でも研究成果の公表を行った。また英語論文も刊行した。並行して新たに調査を始める国における調査の交渉も開始し、先に言及した南アフリカに加え、ジンバブウェやエリトリアも訪問した。エリトリアについても限定的ながら聞き取り調査を実施した。

2019 年度末（2020 年 3 月）まで南アフリカならびにエチオピアにおいてオーラルヒストリー調査や史料渉猟を実施し、貴重な情報を得ることができた。しかし、その後予期せざる COVID19 のパンデミックの影響により、最終年度の予定を変更せざるを得なくなった。海外調査が実施できない中、それまでの研究を総括し、特に調査が進展した南アフリカとエチオピアの女性兵士の経験を比較検討し、学会発表ならびに英語論文を刊行した。3 年目の最終年度の予定を大幅に変える必要があり、研究を 1 年延長して渉猟した史料の分析を進めた。

COVID19 に加え、2020 年 11 月にはエチオピアの調査地であるティグライ州を基盤とする政党と中央政府の間で戦争が勃発した。本研究で検討した 70 - 80 年代の戦争の経験が再び繰り返される中で、戦時性暴力、民間人の被害に関する情報も錯綜し、また 90 年代に戦争後に生まれた世代が新たに兵力として動員され、女性兵士も新たに参画した。一連の動きは、新しい現象でありながら、本研究課題の分析と通底し、繰り返される経験が各地で散見された。20 年度後半以降、最終年度 4 年目は一連のエチオピアにおける政治変動やティグライ戦争の分析も行うこととなった。

アフリカにおける紛争と女性のエージェンシーに関する基礎的研究と題した本研究は、3 年目以降に調査の制約や政治変動の影響を色濃く受けたものの、短期間ながら多くの研究成果を出すことができた。またそのうえで、基礎的研究からさらに比較のみならず、各国の解放闘争に参加した女性兵士の間での国際的な連携が 80 年代に図られていた事実も浮き彫りになり、今後、同テーマをさらに発展させる端緒を見出すことができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 眞城百華	4. 巻 943
2. 論文標題 混迷するエチオピア政治－アビイ政権成立とティグライ戦争	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 210-219
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 眞城百華	4. 巻 59
2. 論文標題 変動するエチオピア政治	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 116 - 121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Momoka MAKI	4. 巻 36
2. 論文標題 Women and the Armed Struggle in Tigray, Ethiopia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Sophia Journal of Asian, African, and Middle Eastern Studies	6. 最初と最後の頁 85-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件／うち国際学会 1件）

1. 発表者名 眞城百華
2. 発表標題 エチオピア・エリトリア関係再考 - 国交回復と域内関係の再編 -
3. 学会等名 日本ナイル・エチオピア学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 眞城百華
2. 発表標題 アフリカにおける「女性兵士」比較研究の視座
3. 学会等名 日本アフリカ学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 眞城百華
2. 発表標題 「平和と安定」
3. 学会等名 アジア研 × 早大WAVOC × JYPS対話型ワークショップ「TICAD7が残した『社会課題』 - 今だからこそ語ろうアフリカとの未来」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 眞城百華
2. 発表標題 国家とNGO-エチオピア・ティグライの事例-
3. 学会等名 第55回日本アフリカ学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Momoka MAKI
2. 発表標題 Women Liberation in Tigray, Ethiopia: Experiences under a situation of Civil War
3. 学会等名 20th International Conference on Ethiopian Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 眞城百華	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 374
3. 書名 エチオピア帝国再編と反乱（ワヤネ）－農民による帝国支配への挑戦	

1. 著者名 Wakana Shiino, Christine Mbabazi Mpyangu, Haruka Arie, Kaori Miyachi, Yumi Kamuro, Momoka Maki, Chris C. Opsen, Constance Mudondo, Eri Hashimoto, Ian Karusigarira, Keiji Fujimoto	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 364
3. 書名 Contemporary Gender and Sexuality in Africa: African-Japanese Anthropological Approach	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------